
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2019年No. 3 (2019. 7)

- ・ 第80回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第32回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦(円山陸上競技場)
…男子優勝(通算49勝30敗1分)、女子2位(通算6勝22敗)
…女子100mHで佐貫が15” 51、男子5000mWで寺島(3)が20’ 48” 16で部記録更新!!!
 - ・ 第39回仙台市陸協長距離・短距離・フィールド競技会(仙台市陸上競技場)
…女子3000mで栗原(M2)が9’ 54” 30で部記録更新!!!
-

- ・ 北海道大学対東北大学定期戦 2～8ページ
- ・ 2019日本学生陸上競技個人選手権 9～10ページ
- ・ 各都道府県選手権大会 10～11ページ
- ・ 男鹿駅伝競走大会 11ページ
- ・ 七大戦の展望 12～15ページ
- ・ 自己ベスト更新者 15～16ページ
- ・ 今後の予定 16ページ

小暑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第80回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第32回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第69回全国七大学陸上競技大会兼第29回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

◎第 80 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦

兼第 32 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦(6/23) ・北海道・円山陸上競技場

今年は北海道での開催となりました。雨模様から天候が徐々に回復していく難しいコンディションの中、男女ともに接戦となり、男子は優勝、女子は2位という結果になりました。女子 400m の佐貫(4)、男子 5000m の松浦(4)、男子 400mH の加地(3)、男子 4×400mR は大会新記録でした。また、女子 100mH の佐貫(4)、男子 5000mW の寺島(3)は部記録でした。

★北大戦 結果

	トラック	フィールド	総合
男子	64 点	34 点	98 点
女子	33 点	7 点	40 点

☆トラック

男子 100m

1位 白鳥海知(5) 10"95(+0.9)

良いスタートを切り 30m 付近でトップに立つ。そこから徐々に差を広げ 1 位でゴール。

3位 上村尠之(2) 11"27(+0.9)

スタートで一瞬前に入るもすぐに追い抜かれ、後半も伸びず 3 位でゴール。

5位 倉田真樹(4) 11"48(+0.9)

スタートで出遅れ、いきなり最下位に。出遅れのみみからか、上体が浮きうまく加速に乗れない。ストライドもあまり出ず、ピッチばかりが先行し中盤から後半にかけて走りにばらつきが出て 5 位でゴール。

女子 100m

1位 佐貫有彩(4) 12"23(-0.4)

スタートでややリードする。50m 通過ぐらいから徐々に後続を引き離し、1 位でフィニッシュ。

男子 200m

1位 白鳥海知(5) 22"09(+0.2)

コーナーから大きく走りトップに。直線に入り内側の北大と競っていたが 140m 付近から大きく差を広げてゆき 1 位でゴール。

3位 上村尠之(2) 22"53(+0.2)

カーブを抜けた時点では 4~5 位にいたが、後半一定のペースを保ち、そのまま 3 位でゴール。

4位 岩波発彦(M1) 22"67(+0.2)

カーブで前の 2 人には先行を許したが、3 番手争いで直線へ入る。競り合いの中、力が入るもスピードは維持して北大の 2 番手の選手の前に出る。最後は少しピッチが落ち 4 位でゴール。

男子 400m

1位 佐藤千仁(1) 49"86

200m までは上半身の力を使わずに耐え、そこから 100m で徐々にスパートをかけた。ラストは体力が残っていたのでストライドを伸ばし再加速したのと同時に抜け出し 1 位でゴール。

2位 片桐大智(2) 51"37

前半力んでしまいうまく加速できずスピードに乗れない。300m 地点では 5 番目と遅れをとったが、ラスト 100m で混戦に持ち込み競り勝ち 2 位でゴール。

5 位 岩波発彦(M1) 51"67

前半はややゆったりとしたペースで、外のレーンの選手に遅れを取る。200m 通過後スピードを上げ先頭との差を詰めて 3 番手で最後の直線に入るが、混戦の中脚がつりそうになり競り負け 5 位でゴール。

女子 400m

1 位 佐貫有彩(4) 57"13 GR

緩やかにスタートする。前半 1 つ外の選手に離されるが、200m 程で追いつく。その後は後続を引き離し 1 位でゴール。

2 位 小川明音(2) 61"02

前半はスピードに乗れず 200m は 5 番手で通過。その後徐々に順位をあげ 2 位でゴール。

3 位 上條麻奈(4) 61"03

スタート直後に内レーンの 2 人に先行される。後半もあまり伸びずに 3 位。

男子 800m

2 位 谷口尚大(3) 1'54"93

100m のブレイク時点で先頭に立ち、そのまま 300m を通過。北大の選手に抜かれ、2 番手に。600m まで後ろについたが、徐々に離されそのまま 2 位でゴール。

4 位 川島 啓(3) 1'57"15

ブレイク後 4 番手についた。400m を 58 秒で通過。400 地点で後ろの北大の選手に抜かれ 5 番手に。500m 時点からロングスパートをかけ、4 番手にあがった。3 番手の選手には届かず 4 位でそのままゴール。

5 位 松岡陽太(2) 1'59"80

1 周目は終始 6 番手で走った。400m は 58"で通過。2 周目のバックストレートで 1 人追い越し、そこから順位の変動は無いまま 5 位でフィニッシュ。

女子 800m

1 位 上條麻奈(4) 2'18"14

スタートから先頭に出た。後半に失速するも 1 位でゴール。

2 位 小川明音(2) 2'24"86

スタートからゆっくり加速し、ブレイク後は 2 番手につく。400m は 71 秒で通過し、順位をキープしたまま 2 位でゴール。

3 位 加藤ひより(3) 2'26"80

ブレイク後 3 番手に着く。400m を 72 秒で通過したところで 2 番手との差が広がる。その後 2 人で 3 位を争う展開となり、残り 80m で並ばれるが競り勝ち 3 位でゴール。

男子 1500m

2 位 松田将大(M1) 4'01"37

酒井(北大)がスタートから飛び出し、2 秒程空けて第 2 集団 2 番手で 400m を 62 秒で通過。600m 付近で集団のペースが落ちているのに気づいて 1 人抜け出して酒井との差を少しずつ詰めるが大きなペースアップには至らず、3 位とは差を付けたもののそのまま 2 位でフィニッシュ。

4 位 村松兼志(3) 4'05"62

最初から北大の選手がハイペースで入る中、そこには付かずに集団で走る。400m 通過時点で 5 番手。4 番手の選手の後ろについてレースを進める。ラスト 300m でスパートして 4 番手となり 3 番手の選手を追うも追いつくことができずにそのままフィニッシュ。

6 位 菅野燿広(2) 4'19"67

全体的にハイペースなレースだった。先頭は 60 秒くらいで 400m を通過し、その後ろの 2 位集団、64 秒程度でさらに離れた位置にいた。そのまま集団の形は変わらずにレースが進み、どんどん離されていき、6 位でゴールした。

女子 3000m

3位 阿部柚佳(1) 11'38"28

5位 橋本悠実(3) 12'19"64

レース最初から、北大2人が先頭集団、阿部と北大1人が第2集団、橋本が集団から遅れてレースが展開する。阿部は終始北大と競り合いながら、3番手をキープする。橋本は徐々に前を走る阿部と北大の選手との差が開き、ラップタイムも落ちる。2800mまで阿部は北大にぴったり後ろにつかれるが、ラスト200mでスパートをかけ引き離し3位でゴール。橋本も2000以降はラップタイムを維持したが、前との差が詰まることはなく、そのまま5位。

男子 5000m

1位 松浦崇之(4) 14'41"17 GR

5位 柚木友也(M1) 15'53"38

6位 脇田陽平(4) 15'56"13

最初の1000mを2'58で入り、その時点で集団が4人と柚木、脇田の2人に分かれた。2000mをそのままのペースで行き、高橋(北大)と佐野(北大)が離れた。3000m過ぎに酒井(北大)が少し離れたところで松浦がスパートをかけて一気に離し、そのまま1位でゴール。柚木と脇田は2000m過ぎからペースが落ちてきた高橋(北大)を徐々に追い上げるが、追いつくことが出来ず、それぞれ5位、6位でゴールした。

男子 110mH

1位 鈴木健大(3) 15"19(+1.0)

直前に晴れ間が差し、程よい追い風の中でのレース。スタートから先頭に出る。スピードを落とさずに後続を離し、8、9台目は少々浮き気味になるがそのまま先頭で自己ベストでのフィニッシュ。

3位 羽根田佑真(4) 15"55(+1.0)

出だしは良い。1台目を抜けてから隣の北大に並ばれ、横並びのまま9台目を抜ける。しかしここでぶつけることを恐れたか、10台目で少し浮いてしまい、北大生一人

に0.04秒差で負けて3位フィニッシュ。

6位 中村祐貴(1) 16"86(+1.0)

1台目の入りでリードされる。5台目までは悪くない動きだったが後半足が動かず、ズルズルと離され6位でゴール。

女子 100mH

1位 佐貫有彩(4) 15"51(+0.6) 部記録

やや遅れてスタート。少し体が浮きつつも中盤までスピードを上げ、7台目で先頭に立つ。残りのインターバルは危なげなく走り1位でフィニッシュ。

4位 柄澤菜々美(3) 17"60(+0.6)

アプローチはピッチが上がらず1台目から3選手に先行される。4台目辺りまでは後を追うが離され、単独走に。大きな減速等もなくそのままゴール。

男子 400mH

1位 加地拓弥(3) 53"29 GR

風はほぼ無く、午前中とは一転して晴天の良コンディションでのレースであった。スタートから3台目まで良いリズムで加速していくが、4台目、5台目でやや間延びしてしまう。それでもカーブに入ってから減速が小さく、スピードを維持したまま8台目を跳ぶ。しかし、8台目の接地の瞬間やや腰を落としてしまう。これがあだとなり、9台目、10台目を16歩で跳ぶがスピードを維持できず、大きく減速。ラスト40mを粘るも足が上がっていなかった。1位でフィニッシュ。

2位 二ノ神遼(2) 56"14

ハードリングが浮いてしまい、スピードに乗れず前半から置いていかれる。徐々に順位を上げ10台目まで2番手争い、ラストで粘り2位でゴール。

3位 鈴木景(4) 57"21

スタートから2台目まではリラックスして加速。10台目まではペースを維持してレースを進めたが、10台目でバランスを崩し減速。ラストはスピードを持ち直す

ことなくフィニッシュ。通過タイムは200mを26秒9、300mを41秒1。

男子 3000mSC

- 3位 三浦慧士(3) 10'03"54
4位 田沼怜(3) 10'05"26
5位 松館快(2) 10'08"57

スタート後先頭を走る川瀬(北大)の後ろに三浦と田沼が付いた。松館は集団には付かず、自分のペースでスタート。1000m過ぎで2人とも川瀬から離れた。3周目の水濠後、柴田(北大)の飛び出しに三浦が反応したが、田沼は反応できない。三浦は付いていくも2000mあたりで離され、ペースが落ちてしまった。田沼と松館は後半追い上げるも北大の2選手には追いつけず、三浦が3位、田沼が4位、松館が5位。

男子 5000mW

- 1位 寺島智春(3) 20'48"16 部記録
3位 泉健太 (2) 21'52"47
5位 山岸忠相(2) 23'51"86

曇り空で風もなく、涼しい気候でのレースとなった。スタートから寺島が飛び出し、400mを91秒、1000mを3分54秒で入る積極的なレースを見せた。2000mを過ぎてからペースダウンしたものの、追従する選手はおらず、終始先頭を譲ることなくトップでゴールした。泉は2位争いを展開していたが、2000~3000mで和田(北大)にじわじわと離され、後半は一人旅となった。警告を一つ受けたものの、その後は3位を守り抜いた。山岸も積極的な入りで4位を歩いていたが、3000~4000mでそれまで後ろについていた冨塚(北大)に仕掛けられ、粘りを見せたものの及ばず5位でのゴールとなった。

男子 4×100mR

- 1位 42"74

白鳥(5)-羽根田(3)-上村(2)-藤井(大陸)(1)

1走白鳥は北大を抜きバトンパス。2走羽根田は北大に数m後に抜かれてそのま

まバトンパス。3走上村は北大を抜いて少し手間取ってバトンパス。4走藤井は差を縮められながらも逃げ切りフィニッシュ。

女子 4×100mR

- 1位 50"72

柄澤(3)-佐貫(4)-小川(2)-上條(4)

1走柄澤は勢いよくスタート。前に行く北大との差を保ったままバトンパス。2走佐貫は北大との差を徐々に詰めていく。北大とほぼ並んでバトンパス。3走小川はリードする形でバトンを受けとる。コーナーでさらに差をつけ、バトンをつなぐ。4走上條は北大との差をさらに広げ、1位でゴールした。

男子 4×400mR

- 1位 3'19"09 GR

片桐(2)-加地(3)-羽根田(4)-佐藤(千)(1)

一走は片桐。外レーンでありながらしっかりと自分の走りをし、300m地点まで北大とつかず離れず、ラストで少しリードを作りバトンパス。2走は加地。最初のコーナーからかなりとばし、200mを通過する頃には後ろと20mほど差ができていた。後半も後続に差をほとんど詰められることはなく余裕をもってバトンパス。三走は羽根田。この頃には完全に独走状態であったが、油断することなく、最初から最後までイーブンペースでバトンパス。四走は佐藤。一年生ながら400mでは49秒台での優勝。心配する点の一つもなく、余裕の1位、大会記録での優勝となった。

☆フィールド

男子走高跳

- 3位 渡辺智輝(4) 1m75

1m70①：第2マークを逆足で踏んでしまい、曲走への切り替えが合わず、力で無理矢理踏み切った跳躍となってしまった。

1m75①：直線部分を大きくゆっくり走る意識にすることで助走が上手くまとまり、当日の中で一番良い跳躍ができた。

1m80①：1m75 のときと同じ意識をするも、緊張のせいか、直線が少し浮ついてしまい、曲走への切り替えがズレて、踏切が近くなってしまった。

1m80②：助走は1m75の動きを再現できたものの、踏切で潰れてしまった。

1m80③：曲走への切り替えがズレたと感じたが、助走を止めずそのまま踏み切ってしまった。体が起きた状態で踏み切ってしまった。体が起きた状態で踏み切ってしまった。失敗。時間はまだあったのでやり直すべきであった。

5位 高橋潤(3) 1m75

1m75 から試技を開始したがうまく頂点が合わず3本目で跳んだ。1m80ではうまく自分の跳躍ができていなかった。

6位 松岡恭平(4) 1m65

1ヶ月前から踏切の仕方を変えているため、試行錯誤の跳躍だった。1m65は若干バーに触れながらも1本でクリア。1m70の助走も踏切も良い感じに入れたが、惜しくもクリアできなかった。

男子棒高跳

2位 佐々木玲(2) 4m10

雨が降ったり止んだりの天気だったが終始追い風で湿度が高かったためか体感気温も高く体はよく動いていた。順位を意識して3m70からスタートし70、80、90と1本目でクリアでき有利に試合を進めることができた。4m時点で5名(パス2名)が残っていて4mが点数争いのボーダーとなった。1本目、2本目と15の150が立ちだったため3本目で15の155に変え4mをクリアし、3位以上が確定した。4m10は一人での試技になった。4mまでは少し甘かった空中の意識を強くし2本目でクリアできた。4m20も3本目で惜しい跳躍もあったがクリアできなかった。

4位 赤星栄治(3) 3m90

3m80からの跳躍となった。アップでハムを痛め、助走を伸ばしゆっくり加速して

跳んだ。助走が安定せず3m90を跳んだ後4m00では跳躍につなげられなかった。

NM 藤井大輝(M1)

4m30からの跳躍となった。不安定な天気と幅との兼ね合いが助走が安定せずうまく跳躍につなげられなかった。

男子走幅跳

2位 藤井大輝(M1) 6m69(+1.3)

久しぶりの跳躍であったがうまく合わせて順位をしっかりと取ることができた。棒高跳との兼ね合いで4本目までの跳躍となった。

3位 諸田直樹(2) 6m35(+1.4)

怪我明け初戦で、全助走ではなく中助走と短助走で臨んだ。初めてのの中助走のため、スピードが全跳躍を通して良くなかった。

1から5本目は中助走でスピードが出ない分、踏切と空中動作を意識して跳んだ。1本目はシザースの際に腕がしっかり振り切れなかったのが勿体なく感じる。2本目はファールだが、測ってもらおうと6m70を超えていたので、復帰戦かつ中助走を考えるとまずまずの跳躍と思う。良かった要因として、着地動作でしっかり腕を振りきれていたこと、着地時に長座の姿勢まで持っていたこと、助走のテンポアップが上手くいった事が挙げられる。6本目は七歩助走で跳んだ。怪我を回避するための選択だった。

NM 高安弘人(2)

3月4月と部活にでておらず、練習不足であり、走力・技術ともに本調子には持っていくことができなかった。また、低い気温と雨の中、十分にアップをとり体を温めることができなかった。足合わせでは、助走と踏切はできていたが、1本目の跳躍の際に足に違和感を覚え、踏み切れず足を痛めてしまった。

女子走幅跳

2位 佐貫有彩(4) 5m23(-1.0)

1~3 本目は板を意識しすぎてしまい跳躍の直前で減速し、板の10cm手前で踏み切ってしまう。記録は4.97で全体の3番手で4本目に進む。4本目ではこの日初めて板を踏み、5.08mに記録を伸ばす。5本目は踏切直前で間延びしてしまい4.98。6本目も直前にやや間延びしたが大きく減速することなく5.23に記録を伸ばした。

5位 上條麻奈(4) 4m80(-1.9)

6本とも無難にまとめた。技術練習をほとんどしていなかったため、踏切に足を合わせるだけとなってしまった。

男子三段跳

1位 佐藤大斗(2) 13m51(+0.7)

6回の試技を通して意識していたのは、助走の初めの6歩を大きな動きで走ることと、ステップを腰から動かして体の真下に振り下ろすように接地することだった。ステップが潰れ気味になった跳躍も何本かあったが、これまでの試合より比較的安定していたように見えた。

3位 大坂天心(2) 12m92(+2.0)

1本目は記録を残しに行った。潰れる事を恐れての跳躍だったがジャンプで潰れた。記録は残したが2本目以降も攻めきれず、ステップの入りは中途半端であった。力を入れるポイントを意識しても直る様子が無く試合中の技術修正で記録が伸びるイメージも無かったようだ。

4位 大木島壮(1) 12m67(+1.0)

1、2本目は割とリラックスして跳べたが、まだまだ走力とバネが完全には戻っていないため小さくまとまってしまった。3~5本目、特に4、5本目は突然足が合わなくなりパニックになってしまった。恐らく記録を出そうと気持ちが前のめりになったのであろう。6本目は何とか助走を合わせその日のベストを出せた。

男子砲丸投

3位 大野誠尚(2) 10m65

北大の塚本が自分のPBより良い記録を投げたため1投目から思い切り投げた。足が前に出てファール。2投目も同様に思い切り投げたが体が開きファール。3投目は記録を残すため立ち投げで投げ6mくらい。4投目からは記録を伸ばすことを意識し、グライドのスピードをあげて投げたが体に力が入りすぎたりブロック動作が弱かったりして10m中盤どまりだった。

5位 宮本貴広(3) 9m31

1~4投目まで9mを越えるまで立ち投げで投げた。5投目はグライドにしてその日のベスト。6投目は投げ急いでファールした。

6位 新出悠介(4) 8m88

1~3投目は立ち投げ、4投目以降はグライドをした。4投目まで記録を伸ばし続けたが、5、6投目はうまくはまらなかった。

女子砲丸投

1位 畠山千果(1) 10m57

1投目は、ファールをしないことを第一に目線を残すことを意識した。力はそれほどいれていないが、思ったより距離が伸びた。

2投目は、グライドで移動したあとに右足が伸びてしまい力をうまく伝えられなかった。

3投目は、グライド完了後の捻る動きが速くでき、これが最高記録となった。

4投目は、上半身のスピードに下半身がついていけずファール。

5投目は、砲丸のつきだしがまっすぐできず記録が伸びなかった。

6投目は、グライドの流れが悪く身体が上下してしまい力を逃がしてしまった。

男子円盤投

2位 大野誠尚(2) 33m93

1投目は置きに行く投げをし30mくらい。2投目はターンのスピードを上げ31m60くらいで今までのPBだった。3投目も同様にして31m70と記録を伸ばせた。4投目はファール覚悟でねじりを大きくして投げた。33m93とび、今までのベストを2m半くらい更新できた。5投目も同様にして投げ33m55となった。6投目は加えてターンの方向を出来るだけ真っ直ぐにして投げた。しかし円盤のターンするときの軌道が小さく遠心力を充分得られずにファールとなった。

5位 新出悠介(4) 22m68

2投目しか記録を残すことができなかった。練習投擲通り投げる事ができれば25mは超えることができたので、悔しい結果であった。

男子ハンマー投

2位 野尻英史(M1) 38m21

1投目は回転数を落として二回転での投擲。置きに行く投擲としては十分な35m程度の記録をマーク。二投目、三投目と攻めていき、三投目に38m21をマーク。この時点で暫定首位となった。

四投目以降、記録更新を望むべく攻めの投擲を続けたが、記録更新はならず、順位を一つ落として2位で終わった。

3位 宮本貴広(3) 36m84

練習2投目でかなりいい感じで投げれたが1,2投目で失敗した。3投目でベストをだし4投目に進めたのはよかった。4投目でターンのリズムが崩れたがそれでも記録が伸びたので、5投目でスピードをあげるイメージをしたがタイミングが合わなかったためファール。最後はうまくターンできいい投げができその日のベストを投げれたが思ったより伸びていなかった。

5位 新出悠介(4) 28m05

練習不足と4種目の疲労からか、全く踏ん張りが効かなかった。3投目で28m05を記録した後は、すべてファールだった。

男子やり投

2位 岩波発彦(M1) 50m88

6投通して全助走は行わず短助走での投擲。

1投目、2投目はゆっくりとした助走から49m47、49m77と続けてベストを更新し2投目を終えトップに立つ。

北大の選手に記録を越され、3投目は助走スピードを少し上げたが線を越えファール。

4投目、5投目も速い助走から投げたが、形が崩れて記録を更新できず。

最終6投目はゆっくりとした助走に戻し、手拍子の中の投擲。低い軌道ながらも50m88で記録を更新したが、北大の選手の記録には及ばず2位。

3位 新出悠介(4) 49m39

シーズン初戦だった。1投目は助走が合わずファール。2投目は高く上がってしまったものの、48m69。3投目は2投目より投射角を抑え、49m39。4投目は助走スピードを抑え振り切ることを意識したが、48m38。5投目はキレがなく、48m72。6投目は助走スピードに頼ったが、耐えられずにファール。

4位 秋葉湧汰(2) 48m38

全ての試技において投げが安定せず、まとまっていなかった。3投目までの投擲は助走の勢いが無く、やりにも助走のスピードが伝わっていなかった。4投目以降は助走のスピードを上げたが、4投目、5投目は助走が合わず、やりが吹き上がってしまっていた。6投目はうまく修正出来たが、やりがまっすぐ飛んでおらず、風の抵抗を受ける投擲となってしまった。

◎2019 日本学生陸上競技個人選手権(6/7~9) …Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)

日本インカレの A~B 標準に相当する記録を残さないと出場することができないこの大会に我が校からは 4 人が出場権を獲得し、3 人が出場しました。結果と選手の感想を紹介します。

男子 200m

・芦田 周平(3) DNS

女子 200m 400m

・佐貫 有彩(4)

200m 予選 2 組 1 位 25"03(+1.7)
準決勝 2 組 4 位 24"77(+1.9)
決勝 5 位 24"58(+1.9)
400m 予選 3 組 1 位 56"27
準決勝 3 組 3 位 56"35
決勝 7 位 56"63

学生個人に女子 200m、400m で出場し、200m は 5 位、400m は 7 位でした。

400m は今シーズン不調であり、今大会ではレースパターンの修正を行いました。4・5 月の大会では前半積極的にいって 26 秒台で入り、後半伸び悩む場合が多かったのですが、今大会では前半を抑えてイーブンペースを走ることを意識しました。そのせいか 3 本とも 300m 付近までは全体のほぼ後方にいて、ラストの直線で追い上げるという形になりました。予選では大雨のコンディションの中、シーズンベストで走ることが出来たことが本大会での 400m での収穫でした。200m は準決勝・決勝では加速区間で出来た上位選手との差を埋めることが出来ず、後半苦しい走りとなってしまいました。特に、最初の 1~4 歩目までの足の運びを改善していきたいです。

200m,400m 共に SB は出ましたが、思っていたよりは良くありませんでした。本数が多い試合で大きく崩れずタイムをまとめたことと、全国規模の大会において 2 種目で入賞出来たことは良い経験になりました。

しかし、本大会の女子の短距離種目は、日本選手権を 3 週間後に控えていたため、学生のトップレベルの選手がほとんどいないという状態であり、入賞ラインは全カレと比べると低く感じられました。全カレでは今回出場しなかった強豪選手が揃うと思うので、その中でもしっかりと戦っていけるよう、残りの期間努力していきたいと思います。

最後に、日頃からご支援くださる OB の方には非常に感謝しております。今後ますますのご支援よろしくお願いたします。

女子 800m

・上條 麻奈(4) 予選 6 組 4 位 2'15"83

女子 800 m に出場しました。今シーズンは春先の怪我で例年よりもシーズンインが遅く万全の状態とはいきませんでした。大学に入ってから 2 回目の全国大会、800 m では初めての出場であり、とても楽しみにしていました。

レースは先頭の選手達について行くことはせず、ある程度の距離を置いたまま 5 番手で 400 m を通過し、そこから残り 150 m 地点で 1 つ順位を上げ、2'15"83 で 4 着のゴールとなりました。多くの反省点がありますが、特に精神面の弱さが出てしまったと感じました。格

上の選手ばかりであったことを理由に先頭集団について行かなかったことで、400 m の通過が遅くなり、ラストで3着の選手に追いつくことができなかつたのかもしれませんが。その中でも400 m 通過で諦めるのではなく前を追うことが出来たことは少し成長した部分であったと思います。

今大会は反省することは非常に多かったのですが、マイナスのイメージではなくこれから繋がるプラスのイメージで終えることが出来ました。このプラスのイメージを今後に生かしていきたいです。沢山の応援がとても力になりました。ありがとうございました。

男子 10000mW

・中川 岳士(M2) 31位 44'38"72

10000mW に出場し、44'38"72 で決勝 31 位でした。昨年よりややタイムを縮めたものの、全国の舞台で上位選手と競り合うことはできませんでした。

昨年10月から2月まで競技から離脱し、3月から復帰してのレースだったので、それを考えると予想より良いタイムでは歩けました。これまではどちらかといえば順位を狙って独歩で後ろから拾っていくレース中心でしたが、今大会はそれでうまく順位を上げられるほどの力が自分に戻っていないことはわかっていたので、とにかく前の選手に食らいつくことを意識しました。5000m までは集団で粘り、そこで一度気持ちが切れましたが、その後も他の選手になるべくついていきました。その結果、タイムの落ち幅が抑えられたように思います。

練習不足、フォームの崩れなど、課題を挙げればキリがありませんが、今の状態で最善のレースができたと思います。今できる最善を尽くし続けることが今後のステップアップになると思うので、今大会で得た感触を忘れずに今後も邁進していきます。

◎各都道府県選手権大会

七大戦前最後の試合となる部員も数多くいる選手権大会で、多くの部員が上位入賞、自己ベスト更新等活躍しました。入賞した選手を紹介します。

・宮城県選手権(7/6～7) …ひとめぼれスタジアム

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子 800m	谷口 尚大(3)	1位	1'53"40
	荒田 啓輔(M1)	2位	1'53"56
	松田 将大(M1)	4位	1'54"63
	千葉 琢巳(1)	6位	1'57"51
	川島 啓(3)	7位	2'01"93
男子 1500m	松田 将大(M1)	5位	4'03"06
男子 10000m	脇田 陽平(4)	6位	32'18"32
男子 110mH	鈴木 健大(3)	7位	15"24(+0.7)
	楠木 啓介(M2)	8位	15"32(+0.7)
男子 400mH	井戸端 佑樹(3)	7位	54"84
	森 渉(M2)	7位	26'08"88
男子走高跳	山下 一也(M1)	1位	2m07
男子棒高跳	佐々木 玲(2)	7位	4m20
男子砲丸投	赤星 栄治(3)	8位	4m00
	大野 誠尚(2)	6位	11m62

男子ハンマー投	宮本 貴広(3)	6位	37m54
	野尻 英史(M1)	7位	36m69

・秋田県選手権(7/5～7) …秋田県立中央公園県営陸上競技場

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 100m	佐貫 有彩(4)	1位	12"21(-1.2)
女子 200m	佐貫 有彩(4)	1位	25"06(-3.7)
女子 400m	佐貫 有彩(4)	1位	55"94
男子 110mH	鈴木 景(4)	4位	15"74(-0.6)
男子 400mH	鈴木 景(4)	5位	56"11
男子 3000mSC	木村 秀(3)	4位	9'56"27
男子三段跳	大坂 天心(2)	8位	13m46(+1.9)

・栃木県選手権(6/28～30) …栃木県総合運動公園陸上競技場

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 5000m	栗原 唯(M2)	1位	16'57"32
男子 400mH	加地 拓弥(3)	2位	53"05

・群馬県選手権(6/22～23) …正田醤油スタジアム群馬

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 5000mW	青木 まひろ(2)	3位	25'44"24

・新潟県選手権(7/13～15) …新潟市陸上競技場

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 800m	小川 明音(2)	2位	2'20"16
女子走高跳	中村 真璃子(5)	5位	1m55
男子走幅跳	古俣 諒大(3)	5位	6m91(+1.7)

・長野県選手権(7/6～7) …県松本平広域公園陸上競技場

種目	氏名(学年)	順位	記録
女子 800m	上條 麻奈(4)	4位	2'15"33

◎男鹿駅伝競走大会(6/29) …男鹿市(秋田)

東洋大学や日本体育大学といった、箱根駅伝の常連校も複数参加するこの大会に、我が校も久しぶりに出場しました。区間によっては、関東の強豪私立に勝つなど、健闘を見せました。結果を掲載いたします。

◇7位 東北大学 3:38:29

区間 / 距離	名前(学年)	タイム(合計)	区間順位(全体)
1区 13.5km	木村 秀(3)	44:24	9位(9位)
2区 11.7km	松浦 崇之(4)	37:20(1:21:44)	2位(7位)
3区 7.5km	松田 将大(M1)	25:28(1:47:12)	9位(7位)
4区 3.8km	立野 佑太(4)	14:55(2:02:07)	6位(6位)
5区 8.2km	三浦 大樹(4)	27:21(2:29:28)	8位(7位)
6区 9.9km	脇田 陽平(4)	33:53(3:03:21)	8位(7位)
7区 10.1km	田沼 怜(3)	35:08(3:38:29)	9位(7位)

◎七大戦の展望 in 2019

8月3、4日に七大戦が開催されます。今年は、福岡県の東平尾公園博多の森陸上競技場で行われます。男女共に総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

主将、女子主将によるOBの皆さんへ向けた意気込みと各パートキャプテンの視点から見た今年の七大戦の展望を掲載致します。(出場選手は変更の可能性があります。)

◆主将の意気込み 鈴木景

主将の鈴木景です。今年も七大戦優勝の目標を掲げ、PC達と共に競技力向上に努めてきました。

今年度はインカレを目標にも重きを置き、シーズン前半は「東北インカレの勝利」「全カレ標準記録突破」を達成できるように努力してきました。東北インカレの結果は男子総合2位・トラック優勝と、かなりの好成績を収められました。

そして、シーズン後半初戦である七大戦は東北大学陸上競技部の最大目標であり、現時点で部員のモチベーションがかなり高まっているのを感じています。

私は主将として「中間レベルの部員の競技力向上」を意識して取り組んできました。その結果、短距離・ハードル・中距離・長距離などのパートで正選手争いが激化している状況となっています。これによって残りの期間で大幅な競技力向上を期待できる環境が作れたと感じております。選手一人一人が調子のピークを当日に合わせてベストパフォーマンスをすれば総合優勝は十分に達成可能ですので、優勝は現実的なものになって参りました。部員一同、七大戦優勝を果たすために全力で望みたいと思います。OB・OGの皆様のご声援を力に頑張る参りますので応援よろしくお願い致します。

◆女子主将の意気込み 佐貫有彩

七大戦まであと1か月を切りました。今年の女子チームは七大戦で優勝、3連覇することを目標に掲げています。

今年度の女子チームは対校戦では東北インカレ4位、北大戦では2位という成績でした。昨年と比較すると、どちらも順位を一つ落としてしまった形となりました。人数が少なく、種目にも偏りがあり、なかなか得点に結びつかないというのが現在の女子チームの現状と言えます。

エントリーはもう終わってしまいましたが、女子は点数が少ないため、十分逆転を狙える状況にあると思っています。チームの総力をかけて残りの期間、目標達成のために頑張っていきます。

応援の程、よろしくお願いたします。

◆短距離パートの展望

ここ近年特に男子の短距離種目ではレベルの高いレースが繰り広げられており、男子100m、200m、400mともに七大戦史上最もハイレベルな展開になると予想される。決勝進出ラインは100mが10秒8

台、200mが22秒2台、400mが49秒台前半と見込まれる。大会のキーマンとなる昨年100mと200mでの二冠を達成した芦田周平(3)の連覇が期待される。さらに、シーズンベストではほぼ互角のルーキー佐藤千仁(1)と昨年ダークホース的存在と

して七大戦で大躍進した八巻隼人(3)の対決にも目が離せない。

女子の部では、昨年までで3年連続女子短距離個人種目2冠を達成している佐貫有彩(4)の独壇場となりそうである。集大成の今年も2冠を達成し、有終の美を飾ることができるか。

リレー種目では、男子が4×100mR、4×400mRともにSBランキングで4位につけているが、4×100mRではSBランキング3位の京都大学と0.5秒差につけており、混戦も予想されるので表彰台も十分に狙える位置につけている。

4×400mRでは毎年東北大学は前評判を大きく覆すことに成功し、一昨年、昨年と2年連続で2位に入っている。今年はSBランキング1位の大阪大学が3'09"81で2位の京都大学が3'10"32とハイレベルなレースになることは間違いないが、昨年北日本ICで樹立した3'14"86のチームベストを大幅に更新し、この二校に引けを取らないレースを展開することができるか注目である。

女子4×100mRでは東北大学の連覇が続いているが、今年は大阪大学も十分な戦力を揃えているので油断はできない。2年前に名古屋で樹立した48.57の部記録以来となる七大戦での40秒台で今年も連覇達成に期待がかかる。

◆ハードルパートの展望

男子110mH

得点ラインは昨年よりも上がり、15秒2から3前後になると思われる。東北大勢は、鈴木健大(3)が今季ベスト15秒19で4番手につけており、その後自己ベスト15秒36の羽根田(4)、15秒65の鈴木景(4)と続く。各選手が実力を発揮できれば複数人の決勝進出・得点も期待できる。しかしながら、七大学全体として昨季からのPB更新者が多く、レベルが上がっている

ため、油断は許されない。

男子400mH

こちらも昨年からはレベルが上がり、得点ラインは55秒前半ほどになると思われる。東北大勢は今季互いに切磋琢磨し、記録を伸ばしてきた。昨年覇者の加地(3)は今年も52秒61の記録1位で臨み、連覇が期待される。続く自己ベスト54秒84の井戸端(3)、今季3秒近く自己ベストを伸ばして55秒56の二ノ神(2)も、それぞれ決勝進出、さらには得点も充分見込める位置におり、全員得点の期待がかかる。

女子100mH

今年から女子100mHが対校2点制で導入される。今季記録上位二名は名古屋大の二人が占めているが、東北大勢では専門外だが佐貫(4)が3位におり、練習次第では得点も期待できる。また、15秒47の自己ベストを持つ泉屋(3)も調子を上げてきており、両者の決勝進出、そして1点でも多くの得点を期待したい。

◆中距離パートの展望

今年の七大戦における中距離種目の競技日程は、昨年と異なり男子800m、1500m共に二日目となっている。昨年は、800mと1500mの開催日が分かれており、2種目で得点する選手がいたが、今年と同じ日にあるため昨年に比べると2種目で得点することが難しくなる。この状況は、実力が抜きん出ている選手のいない東北大学にとっては有利であり、得点の可能性が上がる。また、今年の決勝ラインの予想は、800mでは1分54秒台、1500mでは3分57秒台であり非常にレベルが高いと考えられる。昨年までの中距離パートは、現在の大学院1年生が主力であり、対抗戦にも出場することが出来なかった。しかし今シーズンは、学部生が実力を付け、東北インカレでは得点を獲得するなど好調である。男子は、昨年の七大戦での悔しい思いを忘

れず、昨年の得点を超えることを目標に掲げている。

女子 800m においては、昨年の 1、3 位の選手が卒業したため、昨年 2 位であった上條の優勝が期待される。また昨年の秋ごろから中距離パートの練習に混ざることが増えた 2 年生の小川がもう一人の正選手として出場する。800m の試合経験が浅いにも関わらず、今シーズンのベストランキングでは 5 位と良い位置につけている。七大戦までの間、中距離の練習を増やすことで大幅ベストの更新と七大戦の得点獲得が期待できる。

七大戦までに残された時間は長くありませんが、最高の結果を出すことが出来るよう全力で取り組んでいきますので、応援をよろしくお願いいたします。

◆長距離パートの展望

○男子

長距離パートは、昨シーズンは苦戦したトラックシーズンでも十分に健闘し、例年の七大戦は 2 種目合わせて、入賞が 1 名出せるか出せないかという成績であったが、今年は複数名の入賞が期待される。

5000m ではエースの松浦(4)の優勝争いが期待される。立野(4)も SB では十分に入賞が狙える位置にいる。

3000mSC は下級生中心のメンバーで臨む。井上(1)は 9'21、木村(3)は 9'24、松館(2)は 9'34 と、十分に入賞が狙える PB を持つ。

また、今年は猛暑の福岡でのレースになります。脱水や熱中症のリスクも相当高いと思いますが、チームの勝利のために文字通り”命懸け”で戦います。暑さ対策も万全に行って、本番に臨みたいと思います。応援よろしくお願いいたします。

○女子

女子 3000m のレベルは昨年とあまり変わらず、得点ラインは 10.40.00 付近にな

ると予想される。七大戦の 3000m は、東北大を含めて中距離選手が出場する大学が多いので、ラストのスピード勝負も考えられる。

東北大からは、昨年この種目で入賞した上條(4)と 3000m 初レースとなる加藤(3)が出場し、持ち前のスピードと粘り強さを生かしたレースが期待できる。福岡開催ということで暑さ対策も万全にし、一点でも多い得点を目指す。

◆競歩パートの展望

昨年 2 位の寺島(3)の入賞は堅い。泉(2)も入賞圏内にいる。北大戦で PB を更新した山岸(2)も更なる成長が期待できる。

◆跳躍パートの展望

今年の七大の跳躍種目のレベルは得点ボーダーとしては水平系がやや下がり垂直系がやや上がったような状態である。今シーズンの記録で並べた得点ラインは棒高跳 4m10、走高跳 2m00、走幅跳 6m82、三段跳 13m90 である。どの大学も今年 PB を更新した選手が多く当日も PB を出す選手が多くいるとみられる。

男子では棒高跳で佐々木(2)が PB を更新し、4m20 を跳び今シーズン 2 番手タイとなっており、力をつけているので上位争いに期待だ。また三段跳では今シーズン PB を出している大坂(2)や、復帰後調子のいい佐藤大(2)など入賞ラインに入っている選手たちが得点圏食い込めるかに注目である。

また、女子では現在七対校種目に専門選手はいないが、走幅跳で佐貫(4)が 5m23 を今シーズン出しており得点を狙える位置にいる。

パートとしては、春先から怪我人が多かったが、復帰後自己ベスト付近の記録を出した選手や徐々に調子を取り戻している選手が多くなってきています。パート一丸となって 1 点でも多く獲得し、チームに貢

献するので応援のほどよろしくお願ひします。

◆投擲パートの展望

県選が終わりいよいよ七大間近となりました。昨年までは楠(現 5)、野尻(現 M1)の 2 大エースが確実に点をとってきましたが、今年はありません。しかし、その穴を埋めるべく自分はこの 1 年投擲パートの部員と共に成長しました。今年昨年までとは違い、得点圏にいる人物が複数い

ます。絶対的な力を持ったメンバーがいるとは言えませんが点を取れる人材が揃っているのも、個人で戦うのはもちろんですが、チームとして戦い現在の下馬評をひっくり返したいと思います。また、七大戦は PC として最後の大会です。全てを出しつくし自分の専門種目であるハンマー投で上位入賞し、チームに勢いづけ、PC としての最後の仕事を終えたいと思います。

◎自己ベスト更新者(5/22~7/15)

- ・男子 100m
倉田真樹(4) 11"20(+1.1)(中部陸協記録会)
中川岳士(M2) 12"89(+1.0)(北大戦)
- ・男子 200m
古俣諒大(3) 22"04(+1.0)(新潟県選)
八巻隼人(3) 22"36(+0.9)(福島県選)
岩波発彦(M1) 22"67(+0.1)(北大戦)
秋葉湧太(2) 22"77(+0.2)(北大戦)
- ・男子 400m
八巻隼人(3) 49"70(福島県選)
片桐大智(2) 51"37(北大戦)
- ・男子 800m
谷口尚大(3) 1'53"40(宮城県選)
荒田啓輔(M1) 1'53"56(宮城県選)
松田将大(M1) 1'54"63(宮城県選)
千葉琢巳(1) 1'56"66(宮城県選)
川島啓 (3) 1'56"69(宮城県選)
高倉直幸(3) 2'00"07(宮城県選)
菅野耀広(2) 2'03"49(北大戦)
- ・女子 800m
小川明音(2) 2'20"16(新潟県選)
- ・男子 1500m
村松兼志(3) 4'05"62(北大戦)
三浦慧士(3) 4'08"00(仙台市競技会)
臼井駿斗(3) 4'18"59(北大戦)
- ・女子 3000m
栗原唯(M2) 9'54"30(仙台市競技会)
- ・男子 5000m
松田将大(M1) 15'41"62(日体大記録会)
臼井駿斗(3) 16'44"58(北大戦)
若林郁夫(4) 17'07"74(栃木県選)
- ・女子 5000m
栗原唯(M2) 16'57"32(栃木県選)
- ・男子 110mH
楠木啓介(M2) 15"18(-0.1)(宮城県選)
鈴木健大(3) 15"19(+1.0)(北大戦)
- ・女子 100mH
佐貫有彩(4) 15"51(+0.6)(北大戦)
柄澤菜々美(3) 17"60(+0.6)(北大戦)
- ・男子 400mH
二ノ神遼(2) 55"56(宮城県選)
鈴木健大(3) 58"04(北大戦)
- ・男子 3000mSC
三浦慧士(3) 10'03"54(北大戦)
- ・男子 5000mW
寺島智春(2) 20'48"16(北大戦)
山岸忠相(2) 23'51"86(北大戦)
- ・男子走高跳
山下一也(M1) 2m07(宮城県選)
- ・男子棒高跳
佐々木玲(2) 4m20(宮城県選)
- ・男子走幅跳
古俣諒大(3) 6m91(+1.7)(新潟県選)
- ・女子走幅跳

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 佐貫有彩(4) 5m23(-1.0)(北大戦) | 大野誠尚(2) 33m93(北大戦) |
| 中村真璃子(5) 5m01(+1.4)(北医体) | ・男子ハンマー投 |
| ・男子三段跳 | 宮本貴広(3) 37m54(宮城県選) |
| 大坂天心(2) 13m46(+1.9)(秋田県選) | ・男子やり投 |
| ・男子円盤投 | 岩波発彦(M1) 50m88(北大戦) |

◎今後の予定

- ・ 8月3～4日 全国七大学対校陸上競技大会 …東平尾公園博多の森陸上競技場(福岡)
- ・ 8月3～4日 第70回東北地区大学体育大会陸上競技 …岩手県営運動公園陸上競技場

◎編集後記

七大戦まで残り僅かとなりました。北大戦や各都道府県選手権で多くの部員が自己ベストや上位入賞を果たし、七大戦に向けてチームも盛り上がってきました。七大戦では、正選手はもちろんのこと、OP種目に出場する選手、マネージャー、応援部隊が部の目標である優勝に向かって一丸となって戦います。ご声援の程よろしくお願い致します。

文責 黒須大地

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp